

3. 鉄山口から諏訪鉄山跡 そして 鉱山跡に湧き出る鉄泉「石遊の湯」を訪ねる



旧諏訪鉄山の入口 金山入口より蓼科中央高原遠望 写真右手 金山〔金堀場地区〕



横谷溪谷から一旦メルヘン街道の鉄山入口まで下って、ここからいよいよ旧諏訪鉄山の地に入って、旧諏訪鉄山を眺める。

ここまで、降りてくるともう 山の中にあるイメージはない。蓼科山の南西山麓に広がる広大な高原のまっただ中。

なだらかなスロープの畑が続く高原の奥へまっすぐ伸びるメルヘン街道。その右側に北八ヶ岳の峰 左側に南八ヶ岳の岩峰が頭をのぞかせている。この左手側 全体の山の中腹まで旧諏訪鉄山の掘削地や鉱石の集散地の諸施設が広がっていたという。

この「鉄山入口から 左側へ丘の中に入ったところが、旧諏訪鉄山の中心地 金堀場。現

在 集落の奥に鉱山から出た温泉「石遊の湯」がある。また、この鉄山から掘り出されたのは、褐鉄鉱。いたるところで 褐鉄鉱の露頭がみられ、露天掘りでの鉱石採掘が行われたという。太平洋戦争中の鉄不足を補う鉱山として隆盛を極め、戦後 衰退していったという。この一帯は現在 蓼科中央高原とよばれ、高原全体に大別荘地が広がっている。



この地の国土地理院の5万分の一の地図並びに google earth の衛星写真を見るとこの中央高原全体がなだらかな傾斜を持つ平坦地になり、この蓼科中央高原の両側が八ヶ岳の尾根筋の山壁が幾重にも見えるのと同対照的で、きわめて人工的である。ちょうど 中国山地の山砂鉄採取地跡が、山中に忽然と草原となって現れるのによく似ている。

(たとえば 奥播磨 砥峰高原・野々隅原 奥備中 千屋高原 芸北 吾妻山山麓 等々)

この原因が 旧諏訪鉄山の褐鉄鉱露天掘りにあるのか、高度成長期の別荘開発ブームにあるか、それとも自然のなせるわざなのか 定かではありません。しかし、諏訪鉄山は 戦中の鉄不足解消の大鉄山だったようだ。

インターネットで見つけた「諏訪鉄山散策ガイド」などで旧諏訪鉄山の遺構などで関連地の位置がだいたいわかっているの、それを中心に訪ねる。

【参考 諏訪鉄山の概要】

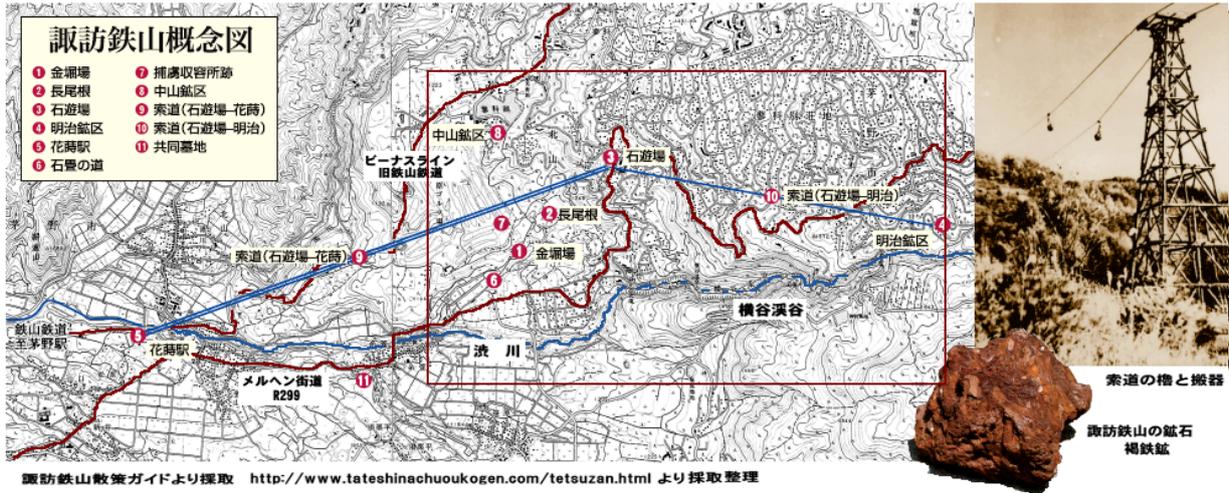
諏訪鉄山の概要は下記資料に簡潔にまとめられていますので、下記にアクセスください

1. 企画展 諏訪鉄山 ハケ岳総合博物館
http://seseragi77.web.fc2.com/img/chirashi_ura.pdf
2. 諏訪鉄山散策ガイド 諏訪鉄山の歴史保存をすすめる会
<http://www.tateshinachuoukougen.com/tetuzan.html>



金山入口から 左手 北へ入ったところが旧諏訪鉄山の一つの中心地「金堀場」で、その奥が褐鉄鉱の露天掘りが行われた長尾根採掘場跡。 金堀場跡と長尾根採掘場跡の間には「石遊の湯」温泉があり、かつての鉱山から噴出した湯だという。また、この、石遊の湯から北へ蓼科湖の畔には中山鉱区跡がある。

「金堀場」から 鉱石はトラックで、現在の国道 299・メルヘン街道を通過して茅野に運ばれた。この金堀場の北東へ登ったところ現在のメルヘン街道が横谷峡入口から北へ山腹をの登った「緑山入口」周辺が、旧諏訪鉄山のもう一つの中心「石遊場」で、ここにも鉱石を集積して積み出すホッパー設備である万石場跡が残っている。そして ここから、東の明治鉱区並びに西側鉄山の更に下の「花蒔」まで索道がつくられ、鉱石が運ばれていた。また、「花蒔」から茅野まで現在のロマンチック街道には鉱石輸送専用の鉄道が走っていたという。



まず、金堀場から長尾根採掘場まで行って「石遊の湯」の温泉に入って、それから 一旦メルヘン街道に出て、石遊場にまで登る予定である。12時半 「鉄山入口」から左手 北への道を鉄山に入ってゆく。畑の奥 こんもりとした林の見える向こうが鉄山地区。 ちょうど背後にうっすら蓼科山が見える。



メルヘン街道 鉄山入口周辺から見た「鉄山地区」



鉄山 金堀場の諸施設概念図

中央の林の後ろ隠れているところが 鉄山・金堀場地区である

鉄山入口を北に曲がって 畑の道を糸萱からまっすぐなだらかな傾斜を登って森に入って来る道に合流する。森に差掛ったところに鉄山の案内板が掛けられていて、この糸萱と金山を結ぶ道がかつて 鉱石をトラック輸送した道で、アスファルトの下には輸送トラックの重量に耐えられるように建設された石畳の道が眠っている。



鉄山の鉱石トラック輸送の道でアスファルトの下に石畳の道が眠る

この石畳の道が抜けてゆく森は小さな丘と丘の間を濡れてゆく道で、左手にユースホステルの横を抜けるといくつかの丘に囲まれた広い比較的平坦地になり、ここが現在は北山の地名の小さな集落 かつての金堀場である。

ユースホステルのところを抜けたすぐ右手山際が広場になっていて、山際にそって 高さ数m 草で覆われた石組が走っているのが見え、道の奥はその奥で少し、広くなった平坦地になっている。

この石組がかつての諏訪鉱山 金堀場の万石跡。

かつての鉱石集積ホッパーで、ここからトラック輸送された遺構である。

この奥が金堀場地区で道がまっすぐ奥へ伸びている。この道の両側にかつては事務所・飯場・売店など鉄山の諸施設が立ち並んでいた。今はそんな鉱山のかげらはみじんもなく静かな明るい集落である。



ユースホステルが傍に建つ金堀場地区への入口



かつての金堀場・現在の北山集落



金堀場万石跡



諏訪鉄山の鉱石の集散ホッパー施設 金堀場万石跡 ここからトラック輸送で運び出された 2010. 10. 17.



周囲を丘で囲まれた まるで隠れ里 かつての鉄山・金堀場・現在の北山集落 明るい美しい里でした
この道の両側に かつての諏訪鉄山の諸施設が建っていた

万石跡の横からさらにまっすぐ奥に伸びる道のかたわらに、木立ちに包まれたしゃれたイタリア レストランがあり、お客を送り出したオーナー夫妻が、ぶらぶら歩いてくる私を不思議そうに眺めている。



今は静かな林に包まれた別荘地 旧諏訪鉄山の一角 鉄山・金堀場(現在の地名は北山)に
林に包まれた素晴らしいレストラン レストラン「マハロカフェ」がありました お勧めです
「この近くの山神様へ行く道 教えてほしいの ですが・・・??」

「すぐそこを左に入ったところ 昨日 山神様の御柱祭に参加したとこよ」と気さくに 山神様について、教えてもら
う。ちょうど昼時 このレストランで昼食をとらせてもらいながら、この周辺の地理や諏訪鉄山のことなど色々情報を聞
かせてもらった。 こんな 山中で おいしいイタリアンのランチが取れるとは・・・。

東京から脱サラで気楽な店を開かれたそうで、本当にすがすがしい気持ちで 諏訪鉄山の中を歩きます。

このレストランからすぐの左手への小道に 手書きで山神様への矢印標識がありました。

このわき道を左にはいって、林へ向かって登ってゆくと、山際に集会所があり、その奥の林の中に小さな社があり、それが山
神様。 社の前には諏訪大社の御柱とは比べ物にならないが、小さな柱が4本立っていました。

また、ちょうど集落の西端の高台 集落が見渡せ、緩やかなスロープに挟まれて 先ほど歩いてきた道がまっすぐ奥へ伸びて
いる田園風景。 その丘の上に八ヶ岳の峰々がちょこんと頭をのぞかせていました。



山神様へ登る小道が左に



山神様への道の途中から見る金堀場の集落



集落の西端の高台の林の中に山神様

山神様のすぐ下の集会場の窓には 山神様の概要や地元の人たちによる諏訪鉄
山 万石跡の整備の新聞記事が掲示されていました。

今も地元の人たちによって、この山神様もよく整備され、祭りが守られていると
ともに、もうなくなってしまっ約半世紀を経る諏訪鉄山が愛されていることに
びっくりでした。

なお、私は「やまがみさま」と言うのだとおもっていましたが、
正式には「さんじんさま」でした。



山神様 (さんじんさま)

昭和12年、鉱山の開発にあたって祀られた山の神です。林業や山の仕事に携わる人々にとっては欠かせない神様です。今でも、山の神の祭日に山仕事に入ると災難にあらうと恐れられている、民間信仰の神様です。山神様前では集会や、僅かな娯楽として相撲大会なども催されました。



山神様前での集会

企画展「諏訪鉄山」

期 間 平成21年7月18日(土)～10月4日(日)
 こころ 茅野市八ヶ岳総合博物館 TEL.73-0300

諏訪鉄山 山神様 今も集落の人たちに大事に祭られている



「石安場の万石」周辺整備を伝える
 新聞記事 2009.3.27.
 金堀場 山神様横の集会場揭示

山神様は鉄山・金堀場の集落の西端の高台にあるので、集落全体が見渡せるのですが、全体的な鉄山を示す地形はとらえられませんでした。なんとか諏訪鉄山 金堀場の全景や痕跡が見えないかと、ぐるりと丘の上を歩きましたが、周囲を森に包まれて、幾つもの畑が広がる緑の小さな丘に家が点在する集落・村というより静かなビレッジ。そんな感じで、この感じが鉄山の痕跡かもしれません。



山神様のところから金堀場の丘〔平坦地〕を眺める
 右手に下れば万石跡より鉄山入口 左手に登ると石遊の湯・長尾根採掘場跡



石遊の湯側から金堀場を眺める
 正面左手の森の向こうが万石跡
 正面奥山神様の位置である

旧諏訪鉄山の中心地 金堀場の今 2010. 10. 17.

元の道に戻ってさらに登ってゆくと集落を抜け、高い樹木の林の中にはいって、正面に交差する十字路
 細い道ですが、左へ行くと蓼科湖そしてそのそばにある旧諏訪鉄山 中山鉱区跡 右に行くと鉄山入口の少し上のメルヘン街
 道に出る。道を横切って少し上ると石遊の湯である。



蓼科湖・旧中山鉱区への道との十字路 正面石遊の湯・長尾根採掘場跡への道

道を横切って少し上ると正面ちょっと広がった場所の右手に「石遊の湯」が見える。石遊の湯の横をさらに奥へ 旧諏訪鉄山 長尾根採掘跡への行き止まり道が伸びている。



石遊の湯
この周辺は諏訪鉦山「石遊鉦床」の露天掘りが行われた場所で、そこから湧出した温泉なので「石遊の湯」と名付けられた。文字通り諏訪鉦山の湯である

諏訪鉦山 石遊鉦床の周辺から湧出した温泉「石遊の湯」で この場所周辺は褐鉄鉦の採掘現場であったという「石遊の湯」のすぐ横からまっすぐ奥へ長尾根採掘跡への行き止まり道が伸びている

この長尾根採掘跡へ行くには「石遊の湯」の許可をもらうよう聞いたので、受付で声をかけて 奥へ行く。10分ほど奥へこの道を行くと行き止まりで、そこに案内標識があり、雑木林の中 一段降りたところが、雑草が生い茂った広場状の湿地になっていて、崖の傍らに案内板。ここが長尾根採掘場跡でした。褐鉄鉦がころがっていないか、探しましたが ここではよう見つけませんでした。



「石遊の湯」のすぐ横からまっすぐ奥へ長尾根採掘跡への行き止まり道

長尾根鉱床採掘跡 (ながおねこうしょうさいくつあと)

長尾根鉱床は金掘場と石遊場の中間に位置し、長径600m幅170m厚さは最深で6m以上あったと記録されています。独立した鉱床としては最も規模の大きい鉱床でした。昭和15(1940)年頃から採掘が始まりました。金掘場・長尾根を併せて糸置鉱床とも呼ばれていました。

諏訪鉄山の鉱床は露天掘り、手掘りで採掘されていました。掘り進むごとにトロッコのレールが敷かれ、木造の万石が建設されました。



企画展「諏訪鉄山」

期 間：平成21年7月18日(土)～10月4日(日)
と ころ：茅野市八ヶ岳総合博物館 TEL73-0300



旧諏訪鉄山 長尾根鉱床採掘跡 (上下写真は 同じ場所を角度を変えて撮りました)

もとの「石遊の湯」に戻って 温泉につかる。この温泉は 日帰り温泉なので、気楽にはいれる。

諏訪鉄山の褐鉄鉱の採掘現場から、噴出した温泉。文字通り旧諏訪鉄山の湯である。

実は 褐鉄鉱山から湧き出したお湯なので、褐色に変色した鉄泉かと思いましたが、「ナトリウム―塩化物炭酸水素硫化物泉」だという。ちんぷんかんぷんですが、鉱床から噴出した湯らしく、数々の成分を含んでいて、64℃の高温で噴出したのを加水ではなく 冷まして使っていると。鉄分がどのくらい含まれているのか、よくわかりませんが、やはり空気に触れると水酸化鉄を沈殿させ、湯船の岩肌や底に細かい褐色の鉄系の沈殿物がたまっていました。また、受付にいる管理の人が言う

には、加水せず空気で冷ます時に、大量に鉄分が出てきて、フィルターがすぐに茶色になると、受付の後ろにある泉源小屋の入口を開けてくれて、温泉の配管やフィルターを見せてもらいました。本当にフィルターは鉄分で抹茶。また、ここで採取された褐鉄鉱のかげらを一つ ひょいといただきました。



諏訪鉄山跡から湧出した石遊の湯 2010. 10. 17.



お湯は透明なのですが、
湯船の底や石に赤茶色の鉄分が付
着したり、沈殿していました。

諏訪鉱山跡 石遊の湯
2010. 10. 17.



空気冷却でまっ茶になった
温泉配管フィルター



外の配管もまっ茶でした

「石遊の湯」は空気に触れると含まれた鉄がまっ茶色になり、フィルターの掃除が欠かせないと
温泉管理人の方に泉源小屋の中の配管フィルターを見せてもらった 2010. 10. 17.

この 旧諏訪鉄山の中心地 金堀場から石遊の湯周辺には もうほとんどその痕跡はなく 静かな山郷の別荘地である。
しいていうなら、この「石遊の湯」とこの美しい静かな山郷の別荘地をつくりだした地形かなあ・・・と
時間は 午後2時半前 もらった褐鉄鉱のかげらをを眺めながら、そんなことをイメージしながら、鉄山を後にして
森の中の小道を別荘地が広がる横谷峡入口下の「滝見平ビレッジ」入口のメルヘン街道へ下りました。
もう一つ見ておきたい場所 横谷峡入口からメルヘン街道を上に登った山腹「石遊場」に残る石遊場の万石跡へ向かう。



石遊湯から南東 横谷峡入口下の「滝見平ビレッジ」入口のメルヘン街道へ向かって 森の中を下ってゆく。

メルヘン街道を登りだすとちょうど木戸口神社の「御柱祭」を済ませた一行が下って来るのに出会った。

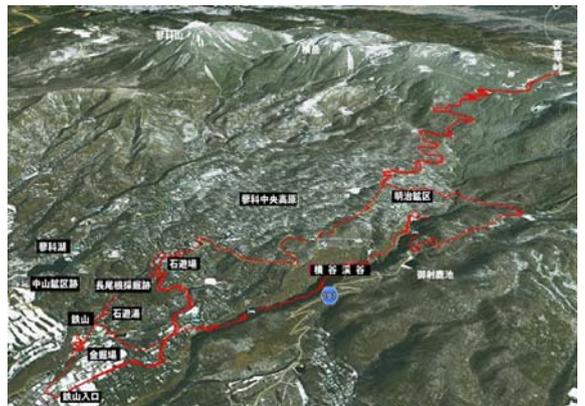
残念ながら 木戸口神社の「柱立て」をみることはできませんでしたが、7年に一度の御柱祭 諏訪地方の一大イベントに出会えたのもラッキーでした。

まもなく 今日3回目の横谷峡入口。今朝バスで登っていたメルヘン街道を蓼科中央高原の上への尾根筋を登ってゆく。



木戸口神社の「御柱祭」を済ませた一行 滝見平で

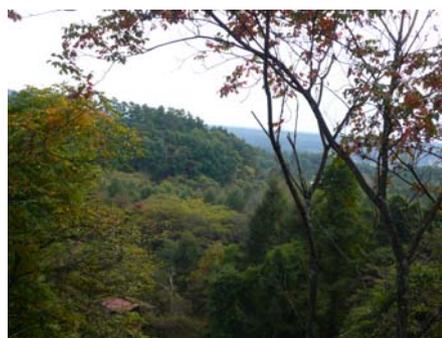
地図を見るとメルヘン街道は横谷峡入口から枝尾根を登って緑山で蓼科中央高原の台地の上へ上がると渋川が流れ下る横谷峡の上の台地の端を曲がりくねりながら野麦峠に登ってゆく。東西になだらかな傾斜で広がる蓼科中央高原にひつつく南北に延びる枝尾根の端「横谷峡入口」からこの枝尾根を登りきって蓼科中央高原の縁に出たところが旧諏訪鉱山の中心の一つ「石遊場」である。現在の「緑山」周辺。



この「石遊場」には 採掘された鉱石の集散ホッパー万石が築かれ、この高原の南東側下の山腹 明治鉱区と高原の北東下の諏訪鉄山鉄道駅「花蒔」へと索道が空をのびていた。

「石遊場」は地形的にも諏訪鉄山格好の鉱石輸送の中継基地でもあった。そんな「石遊場」の万石跡が緑山バス停近くの枝尾根の縁にあるという。現在 この広大な蓼科中央高原全体が林に包まれた巨大別荘地で、なだらかな傾斜の森全体に網目のように小道が張り巡らされている。

(別荘地区画はいびつで基盤の目状でないため、小道と言っても車が通れる道であるが、網目状に張り巡らされていて、しかも 案内板・標識が簡略化され、目印がないので、ポイントを探すのは大変である。高原別荘地の特徴か・・・)



紅葉したメルヘン街道の両側には森の中 別荘地が続く 2010. 10. 17.

横谷峡入口から登り始めて ほぼ 20 分ほどで 左蓼科湖 右麦草峠への T 字路になっている緑山につく。
旧諏訪鉄山の万石跡が向かいにあると資料で読んだホテルやレストランが見える。
メルヘン街道沿いなのですが、歩きながら注意しながら登ってきたのですが、左手の崖側は雑草と樹木でよくわからず。



「緑山」バス停周辺 蓼科中央高原の縁に登り切って道は左蓼科湖 右麦草峠へと別れる

T 字路手前、駐車場脇で メルヘン街道の落ち葉掃除をしている人がいて、「メルヘン街道の T 字路の左脇に崖の下へ回り込んで降りる道があるで、それを行けば、判る」と教えてもらう。

緑山の T 字路脇からメルヘン街道の崖下に回り込むとメルヘン街道の崖下を沿う道となり、この道を入口に別荘地が広がっていました。もっとも こちらの方はちょっと荒れている感じ。

人っ子一人通らぬ崖下の道を少し行くとメルヘン街道沿いの崖の斜面上方に壊れたコンクリート跡が見えました。それが、万石跡でした。



緑山の T 字路脇からメルヘン街道の崖下に回り込むと メルヘン街道沿いの崖の斜面に万石跡がありました



石遊場「石安場の万石跡」

2010. 10. 17.

諏訪鉄山

現在観光地あるいは別荘地として賑わう蓼科湖南岸から蓼科中央高原一帯は、第二次世界大戦を挟んだ一時期、日本の鉄不足を補うため褐鉄鉱を採掘する鉱山、「諏訪鉄山」として 2000 名を超える作業従事者が働く場であった。今でも自然とは思われない尾根を切り取ったような地形のなかに、当時の痕跡が残されている。



採掘の様子



採掘の様子



金堀場露天掘りの切羽



索道と搬器



万石からトラックへ



北山線の開通を祝う

当時の諏訪鉄山の様子を伝える写真

八ヶ岳総合博物館 企画展「諏訪鉄山」資料より

この崖下の道の先にも旧諏訪鉄山の痕跡がないかと先までゆきましたが、誰一人いない別荘地が静かに林の中に埋没しているだけで、何もなし。少し先で このメルヘン街道沿いの道も行き止りとなり、仕方なく崖にある別荘地の一角をよじ登ってメルヘン街道へ

これで 諏訪鉄山を訪ねる walk も終了。
本当に知らなかった褐鉄鉱鉱山とその周辺の景色
長と紅葉とあいまってすばらしい景色でした。

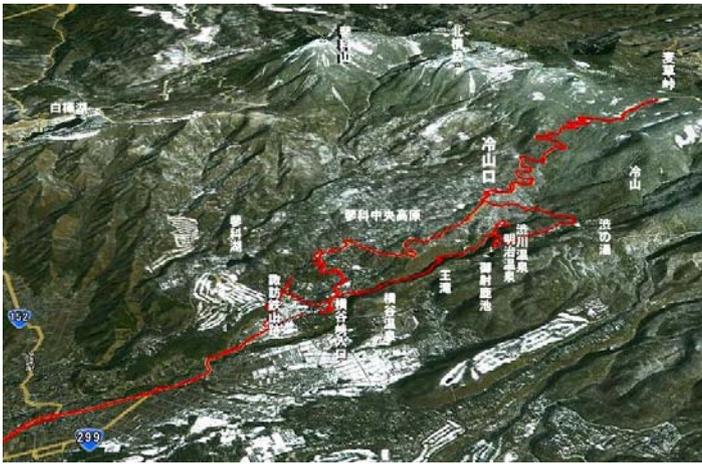


褐鉄鉱が本当に古代たたら製鉄の黎明の時代に製鉄原料として使われたかどうか・・・は判りませんが、山全体が褐鉄鉱の鉱床を思わせる巨大な製鉄原料がこの地にあった。そして製鉄と関係するといわれる「諏訪大社の神と祭」みずずかる信濃 信濃は「鉄の国」。「本当だろうか・・・」と思ってきましたが、実感として そうだったろうと。午後 3 時半 横谷峡入口の一つ手前「弓木入口」のバス停に座り込んで、暮れゆく秋の蓼科を眺めながら 満足感いっぱい 帰りのバスを待つ

2010. 10. 17. 夕暮れ 旧諏訪鉄山 諏訪中央高原で
帰りのバスを待ちながら

Mutsu Nakanishi





【 参考資料 】

1. 企画展 諏訪鉄山 ハヶ岳総合博物館
http://seseragi77.web.fc2.com/img/chirashi_ura.pdf
2. 諏訪鉄山散策ガイド 諏訪鉄山の歴史保存をすすめる会
<http://www.tateshinachuoukougen.com/tetuzan.html>
3. ハヶ岳の地質及び気候 『ハヶ岳 ー自然を楽しもうー』ハヶ岳教本編集委員会【編】より
<http://www.kameyahotel.jp/main/study/Learn1.htm>
4. ハヶ岳西麓 上川水系 渋川 (横谷峡) の滝 滝の地学記録カード
<http://chibatagi.moo.jp/kengaitakicard/sibukawa.html#2>
5. 千曲川流域の裾鉄山 柏原鉱山
http://www.janis.or.jp/users/gann/tisitu/100sen/tikasigen/kaiwabara_kouzan.htm
6. 「たたら原料 赤泥」 越の大王 加越たたら より
<http://www3.fctv.ne.jp/~takae-u/kousou1.htm>